

保護者を「受験生の保護者」にする 2年生冬休みからの働き掛け

時期の特徴

少しずつ生徒の受験への意識が高まりつつあるが、具体的な志望大は未定で、入試本番までの過ごし方なども分かっていないため、不安を感じ始める生徒や保護者も多い。

指導のポイント

保護者の入試本番までの意識の変化をあらかじめ見通した上で、情報提供の戦略を立てる。また、生徒と保護者が受験について率直に意見交換が出来る関係を築けるよう支援する。

※このコーナーは、高校の先生方との検討会を経て制作しております。

目的別データ活用

1 入試本番までに 伝えたい内容と 時期を整理する

……→ 図1

◎志望大合格に向けて、高校（特にクラス担任）と保護者が足並みをそろえて生徒を支援することが出来れば、生徒にとってこれほど心強いことはない。だが現実には、保護者も入試に対して不安、迷いを抱いている。高校として時期に応じた保護者支援を行うことは、間接的だが重要な生徒支援と言えるだろう。生徒の進路選択や受験に対する意識の変化を踏まえて、いつ、どんな情報・メッセージを、どんな形で保護者に提供するかを、入試まで1年となったこの時期に教師間で確認しておくとういだろう。

2 過去の 「保護者事例」を 共有する

……→ 図1

◎いつ、どんな情報・メッセージを保護者に発信するかは、各校の進路指導スケジュールで決まる。だが、より重要な視点は、自校の保護者のニーズに合致しているかどうかであろう。保護者との関係構築が難しくなっていると言われる昨今、それぞれの教師が過去に体験した保護者とのかわりを教師間で共有しながら、「この時期に、こうした内容を伝えることで、保護者からどんな質問が上がるかが予想されるか」などを話し合っておく。そうして保護者を深く理解して支援することで、保護者との信頼関係を深めていくことが出来る。

対教師 への データ

保護者に理解してほしい内容、
教師間で目線合わせする
時期を

データを用いた指導の流れ

STEP 1

◎2年生の冬休み（後半）から、受験本番までに、保護者に理解しておいてほしい情報、学校として伝えたい思いを挙げる（図1）

STEP 2

◎STEP 1で挙げた内容について、それぞれ、発信するツールや機会を検討する（図1）

STEP 3

◎保護者に情報発信を行う前に、そうした情報に対して保護者からどんな反応や質問があったか、過去の事例を学年団などで共有する（図1）

STEP 4

◎3年生の学年団に図1の内容を申し送りし、伝えたこと、まだ伝えていないことを確認してもらう

図1 保護者に伝える内容と時期の整理シート

保護者に伝える内容	時期	伝える手段	過去に保護者から出た質問を共有しましょう
<p>●現時点の志望の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校と生徒が共有した学習プランを保護者に示す 3年生・0学期の学校での取り組みを説明する 基本的な入試情報や進学環境の資料を配る 冬休みに、保護者と生徒の間で志望大に関するすりあわせを行うようお願いする 	2年生 12月	三者面談	わざわざ都市部の大学に行くよりも、地元の専門学校に進学したほうが、進学費用がかからず、就職にも有利だと思うのだが
<p>●1年後の大学入試本番までの流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 現役生の成績推移モデルを例示する センター試験、個別学力試験などの出願時期と、それまでに決めなければならないことを整理する 現3年生の自己採点結果を例に、日々の授業の重要性を説く 	2年生 1月	学年通信	子どもの今の校内順位であれば、どの大学までがターゲットになるのか、過去の合格状況を教えてほしい
<p>●模試帳票の見方</p> <ul style="list-style-type: none"> 得意・苦手分野を見極めて、今後に生かす方法 合格可能性判定とは何か 学校が指導している模試を活用した学習の概要 	2年生 2月	学年通信 <small>※1月模試の結果を用いて</small>	D判定では合格の可能性がないと思う。浪人はさせたくないから、志望校を変更させたいのだが
<p>●家庭学習の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校が提示する春休みの学習計画の概要 望ましい春休み中の生活スタイル 課題点検日、補習実施日を改めて告知 	2年生 3月	学年通信	いくら言っても家では勉強しない。塾に通わせれば少しは勉強するようになるのではないかと思うのだが
<p>●受験生の保護者として必要な視点</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試までの1年間のスケジュール（国公立大・私立大別に説明） 「受験生」としての意識変化 部活動との両立、引退後の学習計画 受験は団体戦（クラスの大切さ） 	3年生 4月	個人面談時に保護者向け資料を生徒に配布	奨学金にはどのような種類があるのか AO入試とは何か。うちの子どもでも受験できるのか
<p>●学年団としての戦略と、担任の熱意</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路志望調査の意味を説明し、協力をお願いする 3点固定の重要性、保護者のサポートの重要性 担任が目指すクラス像（日々の指導の具体例を挙げながら） 	3年生 5月	保護者会	部活動に一生懸命なのはよいことだと思うが、6月までこの調子で本当に大丈夫なのか



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ（高校向け） > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

情報の理解と当事者としての納得は異なる

学年通信などを通じて、入試情報を保護者に届ける機会が多いだろう。もちろんこうした働き掛けで保護者の入試に対する知識や心構えはある程度は養われる。だが、伝わっていても、我が子の問題として納得できているとは限らない。家庭内で実際に子どもとどのようなコミュニケーションが取られているか、三者面談などで保護者の意識を確認したい。

学資ローンや奨学金情報は出来るだけ早めに伝える

大学進学には、経済的な後ろ立ても欠かせない。受験料のほかにも、入学金、授業料、更に入学後の生活費も必要だ。長引く不況の中、経済的な理由から、進学するかどうかを悩まざるを得ない家庭もある。奨学金などをうまく活用すれば、自己資金が少なくても大学進学は可能だ。保護者と生徒が見通しを立て、進学を決意できるよう、早めに検討材料を提供したい。

進学環境の概要を理解できる情報源を提示

最近の保護者の入試に関する知識量は二極化している。保護者対応では、一定の知識を持った保護者の誤解を解くことが大きなテーマになりがちだが、そもそも入試に知識も関心も持っていない保護者に基本的な情報を提示することも重要になる。保護者向けに入試情報をまとめたWebサイトを紹介するなど、全体像を俯瞰できる情報源を提示したい。

目的別データ活用

1 進路に対する考えを家庭内で伝え合ってもらおう

……→ 図2

◎2年生の冬休みは、保護者と子どもが進路についてゆっくり語り合い、共に考えることが出来る絶好の機会である。3年生になると長期休業中は受験勉強一色で、コミュニケーションを十分に取る時間的な余裕が少なくなる。入試本番が1年後になるこの時期は、普段あまりコミュニケーションを取らなかったり、これまで進路について十分に話し合っていなかったりする家庭に語り合ってもらおうチャンスとなる。なぜ大学に行くのか、そこでどのようなことをしたいのかなど、進路選択の本質部分について双方の考えを出し合えるよう、高校がガイド役を果たしたい。

2 受験生の保護者として求める姿勢を明確にする

……→ 図3

◎家庭内でのコミュニケーションを促す際には、保護者が子どもと向き合う際の望ましい姿勢、注意点についても併せて伝えておきたい。保護者の希望を一方的に押し付けたり、醸成途中の子どもの思いを軽視したりすることを防ぐためだ。ただ、ほとんどの保護者は「自分は子どもの言葉に耳を傾けている」と思っているものだ。頭では「受験生の保護者として望ましい態度」は分かっているけれども、実際にそれが出来ているのか、保護者が普段の行動と照らし合わせながら自己診断できる機会を提供したい。

対保護者
への
データ

保護者が子ども
の思いに耳を傾け、
コミュニケーション
を取る土台をつくる

データ活用の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
◎生徒に図2のシートを配り、冬休み中に保護者と進路について話し合う時間を取るよう伝える	◎保護者にシートを介して子どもと話をしてほしい旨を伝える。また、図3を渡して、コミュニケーションを取る際の注意点を伝える	◎生徒、担任、保護者、担任の順番でシートをリレーしていく(図2)	◎各家庭で記入されたシートでコミュニケーションの深まり度合いを確認し、今後の指導に生かす(図2)

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください！ 右のウェブサイトでご覧いただけます。

●2007年12月号「2年生を受験生にする『3年0学期』の意識付け」

●2008年6月号「受験へ向けた3年生保護者への意識付け」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用 クリック!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→
生徒指導・進路指導ツール集でご覧ください

加工可能な資料が
ダウンロードできます!

生徒指導・
進路指導
ツール集

ウェブサイトで
ダウンロード!

図2 進学に対する生徒と保護者の考え交流シート

() 年 () 組 名前: ()

	生徒の思い	担任コメント	保護者の思い	担任よりご家族へ
何のための大学進学か・どんな大学に進学したいか			(保護者としての希望)	
大学生活で力を入れたいこと			(保護者としての希望)	
大学卒業後の夢、希望				
3年生をどのように過ごしたいか				

●進路についての生徒の考えに担任がコメントを補うことで、生徒の言葉不足による保護者の誤解を防いだり、生徒の希望を後押ししたり出来る。また、保護者の言葉を受け、最後に担任が思いを語ることで、保護者と生徒双方がシートについて改めて関心を持つことができ、コミュニケーションの材料としての価値が高まる

図3 「受験生の保護者」の姿勢チェックシート

チェック	解説	例えばこんな言葉を発していませんか？
お子様の考えにも、耳を傾けていらっしゃいますか？	インターネットの急速な普及などからも分かるように、社会は速いスピードで変化しており、保護者の方々の体験や知識が通じない場面も出てきています。自分の意見は今も正しいのか？ 別の見方があるのでは？ など1歩引いてみて、お子様に聞いてみることも大切ではないでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ●○○学部なんかに進学しても就職先はない (○○学部に行けば就職は心配ない) ●○○大学は、自分が高校生の頃は人気じゃなかった ●○○大学は資格試験の合格者が多いからお勧めだ ※もしかすると、受験者数が多いだけで、合格率は低いかもしれません！
今の成績だけで合格可能な大学を考慮しておられますか？	2年生の3学期からの頑張りで、3年生の夏から秋にかけて、成績がグンと伸びる受験生はたくさんいます。また、今はまだ成果は出ていなくても、お子様は十分に努力をしているのかもしれない。今の成績だけで志望大を決めるのは早計です。	<ul style="list-style-type: none"> ●どうせ○○大学なんて無理に決まっている ●○○大学に行くなら、浪人しないよ (もちろん浪人なんてさせられない！) ●○○大学に合格したいなら、もっと何倍も勉強しないと
大学卒業後を見通してアドバイスをされていますか？	大学さえ卒業すれば何とかなる時代、大学名だけで幸せな一生が送れる時代ではなくなりました。4年間強い興味を持って、人生の土台づくりとして学び続けることが出来る大学や学部をお子様は選んでいるか、ぜひ一緒に考えてあげてください。	<ul style="list-style-type: none"> ●とにかく○○大学より偏差値が上の大学じゃないといけな ●○○大学さえ出れば何とかなる
勉強以外のことも、お子様と語り合っていますか？	2年生から3年生にかけては部活動や学校行事も忙しく、思うように学習時間を確保できない場合もあります。しかし、最高学年として部活動や行事に打ち込み、学校全体を引っ張っていく経験は、必ずお子様の将来の糧となります。お子様がどんなふうに頑張っているかを聞き、ぜひ褒めてあげてください。	<ul style="list-style-type: none"> ●部活動ばかりに一生懸命になっていいの？ ●学校行事に夢中になっているけど、余裕あるのね ●近所の○○さんは、部活動を引退して、塾に行き始めたらいいよ

お子様にも保護者にも、「受験」に向けて求められる姿勢は同じです。お子様の姿勢をぜひチェックしてみてください！



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ (高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス (プラスαの指導)

「友だち親子」のコミュニケーションに注意

最近、生徒と友だち同士のようにいろいろな話をしている保護者も多い。しかし、そうした家庭が進路についてもコミュニケーションできていると判断するのは尚早だ。進路についての話題はなかったり、保護者が話す割合の方が高かったりする場合もあるからだ。各家庭で、子どもと保護者双方がバランスよく思いを明らかにしているかを上記シートや面談などで確認したい。

「3年生」としての大切さも生徒・保護者に理解してもらう

3年生は、授業、行事、部活動など、さまざまな場面で、これまで積み重ねてきた経験の集大成となる時期だ。友人たちと切磋琢磨して過ごす時間は、入試のみならず、これからの将来においても必ず生徒の力になる。3年生を単なる受験準備学年にするのではなく、学校を軸にした生活を送ることの価値を伝え、3年生としての生活の過ごし方も家庭内で話し合ってもらいたい。

大学進学の意味も保護者に考えてもらう

大学進学率は5割に達しているが、それでも「少しでも早く社会に出た方が有利」「女の子には大学進学は不要」など、子どもの進路を古い価値観で決める保護者は今も存在する。そうした保護者には、現代を生きる我が子にとって、大学進学がどのような意味を持つのかを考えてもらうことが必要だ。学校から生涯賃金や就職先の選択肢などについて伝え、家庭での話し合いを促したい。